七戸町立 鷹山宇一記念美術館

第33号
【平成15年12月15日】

SUPORTERS CLUB NEWS
友の会 会報
TAKAYAMA-UICHI MEMORIAL MUSEUM OF ART

〒039-2501 青森県上北郡七戸町字荒熊内67-94
七戸町立鷹山宇一記念美術館内
鷹山宇一記念美術館友の会
TEL 0176-62-5858 FAX 0176-62-5860
E-mail takayama-museum@town.shichinohe.aomori.jp

イタリア美術講座

全6回終了しました!!

鷹山宇一記念美術館友の会では結成10周年の記念事業の一環として、青森県美術館整備・芸術パーク構想推進課の全面的な協力をいただき「イタリア美術講座」(全6回)を開催いたしました。

友の会は、平成12年に結成5周年事業としてスペインへ初めての海外研修旅行を実施しました。その際の「事前研修があればさらに充実した旅になった…」との反省にもとづき、当初は今回の研修旅行(イタリア美術紀行)申込者を対象とした講座でしたが、貴重な機会を得たため、会員はじめ広く一般の皆様にも参加者を募ることといたしました。定員30名をはるかに上回る申し込みをいただき、全6回の講座へは延べ199人の方々にご参加をいただきました。

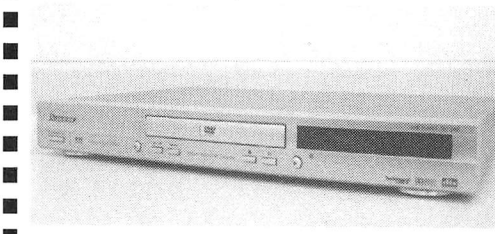
県立美術館の開館準備に多忙な黒岩館長をはじめ、学芸員の皆様方を講師にお招きした今回の講座は、専門家ならではの充実した内容で、参加者は皆熱心に受講いたしました。

▶受講希望者が50名を突破したため、会場を町立体育館隣接の「就業改善センター」に変更し開催いたしました。イタリア留学をしていた講師もおいで、スライドやビデオ、DVDを交えて、イタリア美術をはじめ生活や文化など、詳しく解説していただきました。

回	開催日	テーマ	講　師	参加者数
1	5/17 (土)	アッシジとピサ 中世美術の楽しみ	学芸員 高橋 しげみ 氏	46名
2	6/21 (土)	フィレンツェ ルネサンス美術の楽しみ	総括学芸主幹 三 好 徹 氏	35名
3	7/5 (土)	レオナルド・ダ・ヴィンチと ミラノ	美術館整備推進監 (館長予定者) 黒岩 恭介 氏	38名
4	8/23 (土)	ローマ バロック美術の楽しみ	総括学芸主査 池 田 亨 氏	25名
5	9/20 (土)	ヴェネツィアと ヴェローナの美術	総括学芸主査 池 田 亨 氏	24名
6	10/18 (土)	チネチッタ 映画都市への旅立ち	総括学芸主査 立木祥一郎 氏	26名

▲遠くは八戸市・青森市から、多くの方々がご参加くださった「イタリア美術講座」、うち10名が全回出席しています。皆さん熱心に講師の話に耳を傾けていました。

映像機器 DVDを購入!!



近年多くの美術館が映像資料の充実につとめています。鷹山宇一記念美術館でも映像機器としてビデオデッキの他にレーザーディスクプレーヤーを設置して、各種資料の上映に対応してまいりました。友の会でも様々な資料を購入し企画展などで有効に活用してまいりましたが、このたび、新たにDVDプレーヤーを購入して美術館での利用に供することといたしました。本機は早速「イタリア美術講座」でも活用されました。

■友の会研修旅行に参加して■

「芸術家気取りの一日」

小川　敏雄

七戸町前教育長の佐藤氏と隣り合わせに座ったら写真の話になり、写真と絵画に通ずる作品を追求する姿勢や制作への奥深さなどを聞き勉強になった。右隣りには絵を描く大浦さんなのでこれまた絵画論になり、日展鑑賞の旅は行きの車中から芸術論？で始まった。

9月28日、31名。弘前市の県立武道館で開かれた日展鑑賞旅行のことである。

写実、リアリズムを重んじる日展は、具象がゆえに誰にでも分かりやすい作品ばかりである。日本画や洋画は殆どが150号前後の大作であり、その迫力ある作品群にただただ圧倒され、感動されてあっという間に時間が過ぎた。彫刻は裸婦が多いがどれも異なった表現であることに驚く。それぞれの作家の感性がそれぞれの個性となっているからだろう。そう言えば佐藤氏と個の感性についても話し合った。生まれ持った個の感性と、経験から培われた感性があるとすると、培われる感性は制作の中にだけでなくこの様な鑑賞の機会にも成されるだろうから、今回の旅は有意義な研修の場だと思った。

弘前市立博物館での京都国立近代美術館所蔵日本画名品展も観たが、日展の日本画が洋画と見間違う作品ばかりだったのに対し、こちらは「純粋な日本画だなア」と変な感想を抱きながら、歴史に残る大家の芸術に日展の作品とは異なる感動を覚えた。

日展会場では盛田駿造さんと、県出身の鈴木實氏の鮮やかな色調に共感し合った。帰路では大浦鉄男さんや山本順治さん達と「印象に残った作品」について話し合ったら一致点が多い。小島義明氏の全体にくすんだ色調、工藤和男氏の描写、西房浩二氏の見事な写実性などである。

なんだか一日いっぱい芸術に浸り、芸術家気取りの旅であった。

【天間林村在住・友の会会員】

▶弘前高校創立120周年記念「第34回日展」の会場となった青森県立武道館前にて

＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊

私の美術館めぐりは多くはないが、旅の行程に一つは入れて訪れささやかに満足している。

いつも通り抜けるように見ていた杜の都・仙台市にしばらく滞在したことがある。街の喧騒から逃れて広瀬川の橋を渡り、歩いて館の前に立つ。青葉城のすぐ下にあり、文化の底の厚さを感じさせるその建物は、さすが伊達藩と思った。

常設は、カンディンスキーやクレーが収集されているが、何より東北の画家の絵がいつもかけられていてほっとする。萬鉄五郎、棟方志功、松本竣介など東北地方の燃える火を見せてくれる。何度か訪れているが、企画展の折の賑やかさのないのも良いものだと思った。

十和田市立中央病院の正面前に、やや左下方を見てスクッと立っている若い女性のブロンズ像に気づかれているだろうか。1980年、竣工記念に建てられたものときいている。出入り口に健康でのびやかな肢体を持つ人間がいる・・・佐藤忠良の「早蕨」は、萌える希望を表しているのだろうか。

宮城県美術館には、その佐藤忠良記念館が隣接している。1990年開館で当地出身の氏の作品と収集品が展示されている。近代リアリズムを表現する彫刻の第一人者で、生活感や風土を感じさせる像が多い。ほの暗い室内に展示されている像は冷たさを感じない。細くしなやかなフォルムは清潔である。「帽子、夏」や「若い女性」「カンカン帽」、一連の作品はなつかしさを呼び戻した。いつしか忘れていたあの頃を思い出す。そしてその像から、スイスのジャコメッティを連想してしまった。人間の実存を凝縮し、不安になるほど極端に細長い男の像は、忠良の健やかな人間の命を静かに感じさせる像と対極をなしていると思う。自分ぎりの感じ方だが両方好きだったことを思い出した。

20代の頃、どちらにも惹かれ見に行ったことがあり、当時に思いを馳せなつかしくなった。

代表作の「群馬の人」は思ったほど土の匂いがしない、「カンカン帽」は少女の憧れや夢や希望という字が浮かんで来るようで見る側の心を軽くする。

作者は3年間のシベリア抑留があったと聞くが、作品には重苦しさがなく、超えた軽やかさがあり、私は救われた感じがした。

大きな美術館でめったに出会えない作品を見ることも幸せだが、こぢんまりとした所でゆっくりと作品と語らうことができるのも良いと思った。落ち着いた時間を持て、充分に満足した気持ちになった。

館を出ると小春日和、けやきの落ち葉が舞う舗道を静かに歩く術後の夫は、まるでジャコメッティの男の像だと思った。

仙台は忘れられない街となった。

【七戸町在住・友の会理事】

私のおすすめ美術館
宮城県美術館／佐藤忠良記念館

盛田　恵津子

「宮城県美術館／佐藤忠良記念館」へは

●所在地●〒980-0861仙台市青葉区川内元支倉34-1
TEL022-221-2111／FAX022-221-2115
●開館時間●9:30～17:00(発券は16:30迄)
●休館日●定期休館日は月曜日(休日を除く)
●入館料●常設展一般¥300、学生¥150、
小中学生¥70※特別展には特別展料金有
●JR仙台駅からのアクセス●
【市営バス】西口バスプール仙台市営バス16番乗り場から交通公園行き(広瀬通経由)乗車、二高・宮城県美術館前下車。
※「ループル仙台バス」乗車の場合も同じ停留所で下車となります。
【タクシー】仙台駅から10分
※12/22(月)～新年1/11(日)迄は定期休館と施設メンテナンスのため休館となります。また、上記情報に変更等ある場合もありますので、お出掛けの際には情報のご確認をおすすめします。

鷹山宇一記念美術館
News & Report
2003年12月15日発行

遊蝶記から

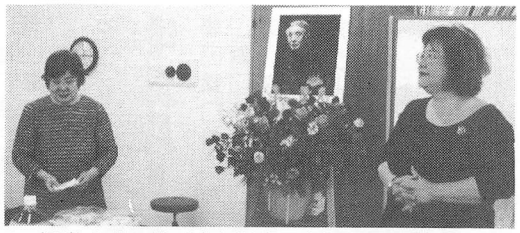
12月10日は鷹山宇一生誕記念日

明治、大正、昭和、そして平成と、90年を生きた画家・鷹山宇一は、平成11年10月25日、絵筆一本の人生に幕を閉じ、ご家族に見守られ天国へと旅立ちました。

美術館では、その翌年から毎年12月10日の誕生日を鷹山宇一生誕祭として、「遊蝶記」を開催しています。

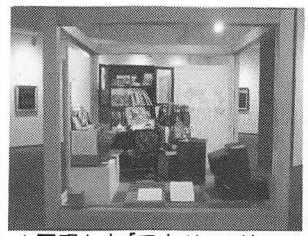
本年も、広く多くの方々に鷹山宇一の世界に親しんでいただこうと、終日無料開館し、初期から晩年までの油彩・木版画を展示するなど「鷹山宇一ミュージアムコレクション展」を開催、特別展示として「鷹山宇一のアトリエ」を再現しました。

また、正午12時から「遊蝶記の集い」を行い、県内在住友の会会員をはじめ、関係者ら25名が一堂に会し、バースデーケーキをいただきながら、鷹山先生との思い出を語り合いました。



▲ご家族と共に過ごすお誕生日を毎年とても楽しみにしていたという鷹山宇一先生。今年の「遊蝶記の集い」には、奥様で当館名誉館長・鷹山増子氏(写真左)がご参加下さり、新婚まもなく初めて訪れた七戸町でのエピソードなど披露されました。

◀皆でハッピーバースデーの歌をうたい、生誕記念日を祝いました。



▲再現した「アトリエ」は、4月中旬まで特別展示。ここには、鷹山宇一制作の秘密がたくさん隠されています！

▶美術館からお知らせ◀

① 12月～3月までの休館日

●年末年始●
12月29日(月)～新年1月2日(金)
●館内整備のため●
2月2日(月)～2月9日(月)
●定休日●
毎週月曜日
(祝日は開館し翌日振替休館)

②「成田亨展」オリジナルグッズについて

「成田亨展」会期中、ｵﾘｼﾞﾅﾙ･ｸﾞｯｽﾞとして販売しておりましたﾌｨｷﾞｱとﾎﾟｽﾄｶｰﾄﾞは、「(有)システム工房」による通販でのお求めが可能となりました。詳しくは、下記ﾒｰﾙｱﾄﾞﾚｽまでお問い合わせ下さい。

●e-mail●
arts.crafts.@m9.dion.ne.jp

美術館日誌

【9月】

◇十和田幼稚園140名様来館(1日)
◇青森県総合社会教育センター「社会科地域教材開発講座」47名様来館(2日)
◇七戸町立城南小学校3年生、乙供保育園16名様来館(3日)
◇東北町立東中学校32名様来館(5日)
◇造形の森展・島田紘一呂展最終日(7日)。博物館実習生2名受け入れ(～16日迄)
◇展示替作業のため臨時休館(8日～12日)
◇アートツアー・イン青森「成田亨が残したもの」記念式典開催、故成田亨氏夫人・流里氏はじめ出品作家参列(12日)
◇成田亨展初日(13日～10月13日)。七戸町内イベント広場特設ドームにおいて、東京カリ～番長を迎えて成田亨展開催記念パーティ開催(13日)
◇成田亨展ワークショップ「怪獣大行進！」開催、講師にプロモデラー・山田卓司氏、情景模型家・島脇秀樹氏を迎え怪獣フィギアを制作(14・15日)
◇火曜サロン開催(16日)
◇三沢市立第三中学校、七戸町立七戸小学校3年生来館(17日)
◇美術館アートクラブ「オリジナル怪獣を作ろう」開催(20・21日)
◇友の会主催イタリア美術講座第5回「ヴェネツィアとヴェローナの美術」開催(於・七戸町就業改善センター、20日)
◇七戸町立七戸小学校2年生来館(22日)
◇美術館アートクラブ「絵を描こう①色鉛筆」開催(27日)
◇友の会研修旅行、弘前市日展・弘前市立博物館(28日)
◇七戸町立七戸小学校4年生来館(30日)

【10月】

◇鷹山館長青森市立三内小学校に於いて講演(2日)
◇七戸町立城南小学校5年生54名様来館(3日)
◇美術館アートクラブ「デコパージュ」開催(4・5日)
◇成田亨展開催記念シンポジウム「怪獣、特撮、そして美術～成田芸術の理解のために～」を開催、パネリストに脚本家・藤川桂介氏、美術評論家・椹木野衣氏、特技監督・樋口真嗣氏(於・七戸町柏葉館、5日)
◇天間林村立天間東小学校30名様来館(9日)。博物館実習生1名受け入れ(～15日迄)
◇鷹山館長幼稚園教師会に於いて講演。三沢市立根井小学校12名様来館(10日)
◇成田亨展最終日。第3回鷹山賞児童作品展作品募集締め切り(13日)
◇展示替え作業のため臨時休館(14日～17日)
◇北海道東北6県町村会長会様視察。第3回鷹山賞児童作品展出品作品審査会開催、審査委員長として二科会会員・濱田進先生来館(17日)
◇第63回国際写真サロン展初日。友の会主催イタリア美術講座最終回「チネチッタ・映画都市への旅立ち」開催(18日)
◇鷹山館長東京出張(20・21日)
◇美術館アートクラブ「絵を描こう②木炭」開催(25日)
◇全日写連青森県本部主催写真教室・モデル撮影会開催、講師に全日写連理事・岡本美知子氏。弘前市立博物館後援会20名様来館(26日)
◇鷹山館長「子どもの文化」会議出席(青森市・29日)

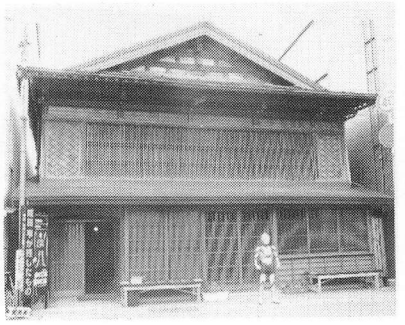
【11月】

◇第63回国際写真サロン展最終日(3日)
◇展示替え作業のため臨時休館(4日～7日)
◇七彩会油彩画教室開催(9日)
◇鷹山宇一常設展初日(8日～16日)
◇美術館アートクラブ「一筆針金」開催(15・16日)
◇展示替え作業のため臨時休館(18日～21日)
◇第3回地球環境世界児童画コンテスト優秀作品展・第3回鷹山賞児童作品展初日(22日～12月14日)。鷹山賞児童作品展入賞者授賞式開催、来賓としてJQAよりISO東北事務所長・齋藤一郎氏来館(22日)
◇七彩会油彩画教室開催(23日)
◇七戸町立城南小学校1年生47名様来館(25日)
◇七戸町立城南小学校2年生42名様来館(28日)
◇(財)鷹山宇一記念美術振興会第5回理事会開催、上半期決算及び企画展収支報告が審議され承認される。
美術館アートクラブ「絵を描こう③パステル」開催(29日)
◇友の会海外研修旅行「イタリア美術紀行」旅行説明会開催(30日)

特別展レポート

アートツアー・イン青森
成田亨が残したもの
9月13日(土)～10月13日(月)

ウルトラマンの生みの親・成田亨(彫刻家)没後初の回顧展となった本展へは、全国各地から9、276人もの多くの方々がご来館下さいました。ウルトラマン世代のお父さんから子どもたちまで広く、成田芸術の魅力に様々な角度から親しんでいただきました。



▶第2会場となった「山勇」では、明治の歴史と伝統を今に伝える商家のたたずまいと作品とが絶妙にマッチしていました。

▲成田亨展会期中の10/5(日)、「怪獣、特撮、そして美術～成田芸術の理解のために～」と題してｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑを開催しました。ﾊﾟﾈﾘｽﾄに、写真右から藤川桂介氏(作家・脚本家)、樋口真嗣氏(特技監督)、椹木野衣氏(美術評論家)をお招きしました。また、このｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑ運営には友の会会員の多大なご協力を賜りました。この場をかりて御礼申し上げます。

第63回国際写真サロン展
10月18日(土)～11月3日(月)

▶国際写真サロン展会期中の26日全日本写真連盟理事・岡本美知子先生をお招きして、写真教室とモデル撮影会が開催されました。

写真愛好家待望の当館恒例の特別展「国際写真サロン展」。第13回関東本部委員展、2002年モデル撮影会入賞作品展と併催して17日間開催しました。会期中、県内外から465人もの多くの方々にご来館いただき、多彩な写真表現をお楽しみいただきました。

第3回鷹山賞児童作品展
第3回地球環境世界児童画コンテスト優秀作品展
11月22日(土)～12月14日(月)

本年第3回展を迎えた絵画コンテスト「鷹山賞展」では、青森県南部地方の小学校21校、中学校7校、県立養護学校1校の29団体、及び5個人から、710点もの作品が寄せられました。

10月17日(金)には、二科会会員で梅花学園女子高等学校教諭・濱田進先生を審査委員長に審査会が開催され、甲乙つけがたい力作の数々に、何度も何度も見直しをしながらの選考となりましたが、入賞25点、入選163点が選出されております。

▶会期初日の22日、鷹山賞展入賞者25名を対象に授賞式が行われ、賞状と副賞が贈られました。写真は最高賞の鷹山賞を受賞した六戸町立折茂小5年・新山翔平くん。

▲鷹山賞「山の中で見つけたきれいな鳥」(木版4色)

作品展は、「第3回地球環境世界児童画コンテスト優秀作品展」と同時開催され、会期中は935名もの大勢の家族連れで賑わいました。

鷹山賞展は、郷土の画家・鷹山宇一の画業を顕彰して一昨年から開催しています。第1回展から審査にあたってこられた濱田先生は、今展で次のように評しています。

「子どもたちの意欲の向上が、鷹山賞展の質の高さに繋がる。このことが鷹山宇一先生の精神だと確信しました。」

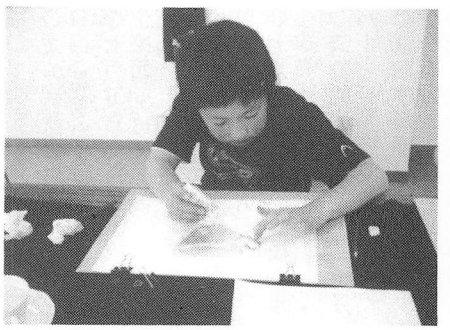
▲22日の授賞式には、地球環境世界児童画コンテスト優秀作品展を主催する(財)日本品質保証機構から、来賓として齋藤一郎ISO東北事務所長をお招きし、ご挨拶を頂戴しました。

☺😐☹☺😐☹☺😐☹☺😐☹☺😐☹☺😐☹☺😐☹☺😐☹☺😐☹☺😐☹☺😐☹☺😐☹☺😐☹☺😐☹☺

☺美術館アートクラブ☺

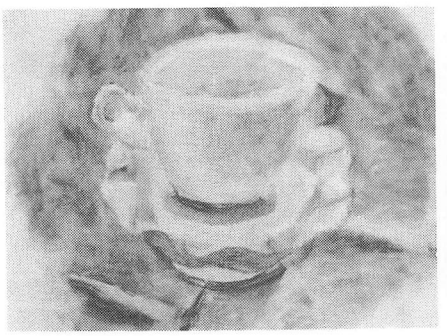
【担当／曽根原牧子】

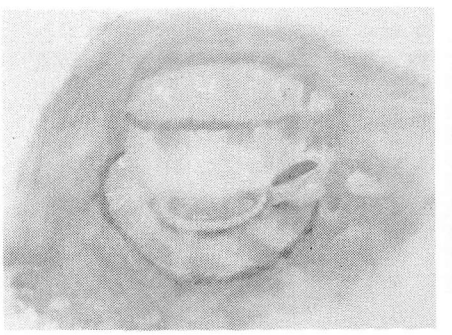
じっくりコース「絵を描こう」からご紹介します。9月から始まったこのコースは、木炭やパステルといった毎回違う材料を使って描こう！という講座です。(写真は木炭で描くから)

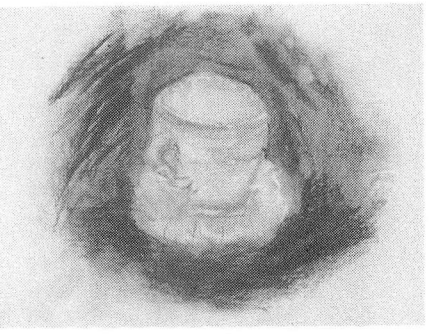


▶木炭はいろんな濃さのかげが描ける。「ここの所は、もう少し淡くしてグラデーションをつけると…うん、こんな感じだ。」

▼友達の作品を見てひと言。「あ、席が違うと光のあたり方も違うんだ。」窓の光が反射したり、お皿に当った光がコップに跳ね返ったり、様々な光を見つけました。







パリへの旅

高橋 美津子

本年第88回二科展において、青森市在住の二科会青森支部・高橋美津子さんが、パリ賞という大きな賞に輝いたニュースは先の32号にてお伝えしたところですが、このほど、パリ研修旅行から帰国した高橋さんに「是非旅行記を！」とお願いをし、寄稿して頂きました。

二科展パリ賞授賞の知らせを受けた日から夢と現実が交差しているような毎日が慌ただしく過ぎ、気がつくともう12月に入っていた。今私はあらためてパリ賞の重さを実感している。

パリ賞を頂くと、その名の通りパリへの研修旅行に行けるのだが、今はパリに限らず自由に研修先や内容を決めることが出来る。しかし私は、迷わず行き先をパリと決めた。

3年前の2000年1月、鷹山宇一記念美術館友の会主催『スペイン・パリ美術紀行』に参加し、多くの個性豊かな絵に出会い、絵というものの奥の深さを感じた。その頃から、抽象的な表現でのびのびと心の中を描きたいと思い始めた。今思うと、私の絵はあの旅をきっかけに流れが変わったような気がしている。もう少しこの雰囲気の中で何かを吸収したいと思ったパリ。あのパリへまた行けるのだと、舞い上がる気持ちを抑えながら、ガイドブックと地図を頼りにいろいろ案を練った。だがやはり、一人旅という心細さも無い訳ではなく、最後は神社へお参りをして神だのみになっていた頃、友だちの一人から「個人旅行でパリだけゆっくり見られるんだったら私も行きたい・・・」との有り難い申し出があった。さっそく旅行社へ変更手続きをして出発の日を待つばかりとなった。

そして、10月23日12時05分発AF275便上の人となり、9日間のパリ研修旅行は始まった。

1日目は、日本よりかなり気温の低いパリの街を、2階建てバス(2階には屋根なし)カールージュに乗りまず市内を一周り。コートにマフラー、手袋、腰にはホッカイロと万全の体制で風を受けながら2階席に座った。紅葉し始めた並木の美しいシャンゼリゼ通り、凱旋門、グランパレ、コンコルド広場、エッフェル塔、オルセー、ルーヴル・・・過ぎた時を語るように威厳を持って目の前に広がっていく。これは夢の中ではない、現実なんだと自分を納得させながら、あまりにもさらりと過ぎていく時間が惜しいとさえ思われる。

バスを降り最初に向かったのは、この旅で必ず行こうと思っていたマイヨールの美術館だった。私は絵と同じくらい彫刻を観るのが好きで、そのきっかけとなったのは、高校2年の夏休みに上野の西洋美術館で観た彫刻家マイヨールの展覧会だった。その時のパステルで描かれたデッサンの素晴らしかった事、遙々パリから来たそれらに、暖かさや、何か現実では味わえないような崇高なものを感じ、芸術というものの素晴らしさを知った。その時のチケットの半券を持っていた私は、それに印刷されていた彫刻にこの旅で再会したいと思っていた。

マイヨール美術館2階のガラスケースの中にそれはあった。30センチにも満たない『レダ』と題された彫刻は、心の中のセピア色のそれより小さかったが、やはりあの時の暖かさと美しさで私を迎えてくれた。また、画家だったマイヨールのデッサンは、遠い日に観たのとは違った印象でそこにあった。

美術館のショップには『レダ』のポストカードもあり、私はそこにいた美術館の人に拙い英語で「私はこの展覧会を高校生の時に日本で観ました。」と、古びた40数年前のチケットの半券を見せると、その人は少し驚いて大きく頷いた。この延長線上に今の自分があると思うと、感慨深い思いがこみ上げ、こらえていたものが溢れてきた。その様子を見て、美術館の人は私にマイヨールの分厚い図録をプレゼントしてくれた。胸が一杯で、少ししか知らないフランス語で「メルシーボークー」とやっとひとこと言った。

初日から幸せな出会いがあった旅は、その後も順調に過ぎて行った。ホテルがオペラ座の近くという事もあり、バスと徒歩で苦労せずに目的地に行けたのも幸いだった。

パリは4度目となる友だちも行きたい所がいろいろあったので、3日目からはそれぞれ別行動をとる事にした。

私は、オルセー、ルーヴル、ロダン美術館、ジュ・ド・ポーム国立ギャラリー、ポンピドゥー・センター、その他画廊を観て廻った。

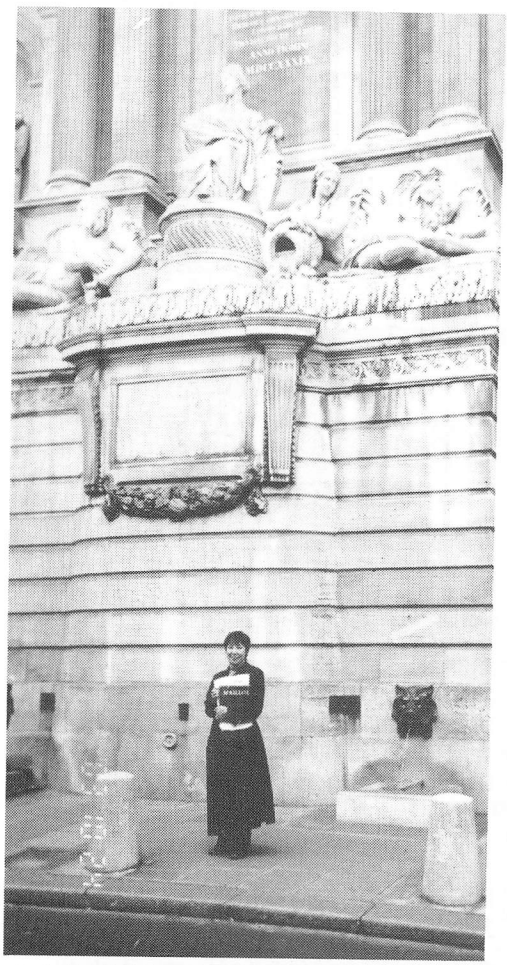
また、国立美術学校の中庭で諷刺画のような個展をやっていたので覗いてみたが、絵よりも建物の重厚さと雰囲気に、こういうところで学べる学生を羨ましく思った。

前の旅でも訪れたルーヴル、オルセーでは、今回は観たいものだけピックアップして、『サモトラケのニケ』やイコン、マイヨールの『地中海』、アールヌーヴォーの部屋等を観て廻った。

ロダン美術館(別名ビロン館)は、彫刻の庭に囲まれて、歴史を物語るように建っていた。代表作の中でも『カレーの市民』はこの場所で観るとまた違った迫力を感じ、カミーユの切ないような彫刻もため息が出るほど美しかった。

私にとって彫刻は、絵を描く時、ある物の陰にある部分を意識する勉強にもなる。

ジュ・ド・ポーム国立ギャラリーでは、中国生まれのフランス人の個展が開かれていて、ルーツである東洋の感覚が、あちらこちら



▲パリにおり立って最初に向かった美術館は、彫刻家マイヨールの美術館。

に見え隠れするような素晴らしい抽象画の大作が並んでいた。

そして、ポンピドゥー・センター内のギャラリーで私が一番心に残ったのは、40代で亡くなったニコラ・ド・スタールの絵だった。他の人の一生分を描き切るような力強いタッチの絵は今も目に浮かぶ。その他マーク・ロスコや、ミロ、ダリ、ピカソ、マチス、ルオー等の初めて見た絵もあり、傾向も技法も様々な絵に大いに刺激を受けた。

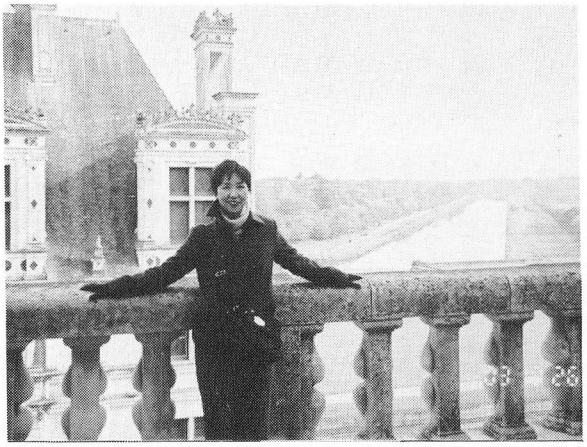
また、オプションで予約しておいたセーヌ川ディナークルーズ、ロワール地方の城巡り1日ツアー、オペラ座のバレエ、ジベルニーのモネの家半日ツアーは友だちと一緒に楽しんだ。

慌ただしいスケジュールの旅であったが、その中でホッと心安らぐ時もあった。ノートルダム寺院で思いがけなく聖歌隊の美しい讃美歌を聴いたひととき、サンジェルマン・デ・プレ教会の荘厳な雰囲気の中に揺れていたキャンドルの灯、カフェ『レ・ドゥ・マゴ』でのランチタイム、画材店での楽しい買い物、どれも忘れることの出来ない思い出となり、私の心の財産となった。

そして、今まで多くの人たちとの巡り合いの中からいろいろ勉強させて頂き、この旅を授かったものだと心から感謝せずにはいられない。

今、いつもの生活に戻ってふと、パリの街並やミラボー橋をアポリネールの詩のように私は思い出す。パリの空の下、今日も変わらずセーヌは流れているのだろうか、様々な人の思いをのせて…。

【青森市在住・二科会青森支部同人・友の会会員】



▲ロワールのお城にて

友の会会員登録の更新と新会員入会お誘いのお願い

本年も皆々様には、友の会運営に多大なお力添えを戴き誠に有難うございました。

新しい年も鷹山宇一記念美術館を応援し、美術館の益々の発展と、会員の相互学習の向上を計り、微力ながらも地域文化に寄与していく所存でございます。尚一層のご理解・ご協力を賜りたく、皆様には引き続き会員登録の更新をお願い申し上げます。16年度の更新手続きは美術館窓口と、同封の郵便振替で行っており、会員種別と年会費は本年同様左記のとおりです。

又、会の充実と安定性を得るため、新規会員のお力は不可欠ですので、美術館紹介と友の会入会へのお誘いを是非お願い申し上げます。

■□■□■会費規程【規約第5条】■□■□■

★一般会員・・・年額3千円
【特典】①ご招待券3枚贈呈及び入館料の割引
②ミュージアムグッズの割引【一部対象外有り】
③研修旅行・講演会・会報等のご案内

★個人特別会員・・・年額1万円
【特典】①一般会員②③の特典
②会員証提示によりご本人と同伴者1名様迄入館料無料
③新規加入の方には美術館で刊行した画集1冊を贈呈

★法人特別会員・・・年額2万円
【特典】①一般会員②③及び個人特別会員③の特典
②会員証提示により代表者と同伴者3名様迄入館料無料

※新規・更新すべての会員の皆様には「鷹山宇一ポストカードセット」をプレゼントいたします。

ご報告

当会設立当初から継続して参りました、美術館への助成金（入館料相当額864,000円）は、10月6日支払いました。

友の会結成10周年へ向けて 原稿募集のご案内

10周年記念特別号へ原稿をお寄せ下さる方を募集しています。400字詰め原稿用紙2枚程度でお願いします。

締切は平成16年3月31日

編集後記

来年、友の会結成10周年を迎えるにあたり、今年は役員会議をいつもの年の数倍開きました。特別号の編集、年はじめのイタリア海外研修旅行の打ち合わせ等、各自忙しい仕事の合間をぬって美術館に集まり、毎回熱心に話し合いをしました。この企画のためご尽力下さった盛田理事をはじめ役員の方々に、この場をお借りして感謝申し上げます。

では、来年も友の会へのご協力よろしくお願いいたします。 編集係M・O

青森放送創立50周年記念

あおもり世界の蘭展2004

●開催のご案内●

青森放送株式会社主催「世界の蘭展」は、洋蘭・東洋蘭・日本の蘭・・・"花の女王"と称される「蘭」を一堂にご紹介！同封のチラシをご参照の上、是非お出掛け下さい。

■期間■
2004年3月19日(金)～24(水)
午前9時30分～午後5時

■会場■
新青森県総合運動公園
【青い森アリーナ】

■入場料■
中学生以下無料
当日券1,500円・前売券1,200円
前売回数券(5名様分)5,000円

※鷹山宇一記念美術館において、前売券、回数券をお取り扱いしております。